



移住のテーマは「人との関係を築くことから」

鬼北町地域おこし協力隊 早川 優子



鬼の棲むまちに移住しました

鬼の棲むまち鬼北町。鬼北町は全国1741の地方公共団体の中で唯一「鬼」の文字が入る自治体です。このまちに、東京都葛飾区から2018年4月に移住しました。私の家は祖父母が南青山、父が京橋育ち、代々東京なので夏休みに新幹線などで田舎に行くお友達が羨ましく憧れがありました。しかし東京以外に住んでみたいと思っただけでも、実際縁もゆかりもない場所に住むとは全く思っていませんでした。きっかけは東日本震災の後、ボランティアで各地いろいろな場所に行ったこと。旅行とは違う視点で知らない地域に入って、観光地ではない普通の民家の人達と話した時、他の地域を知らなすぎで、狭い世界にいたことを痛感しました。知らない土地でちゃんと住んでその土地を知り、地域を知り、もっと自分でも役に立つことは出

来ないか。

それから移住フェアなどに足を運び、小さなコミュニティを求めていたので主に島を中心に訪れてみました。伊豆諸島、トカラ列島など。今でも繋がっている島好きの仲間から、愛媛県オススメだよと教えてもらいしまなみ海道へ。そこから愛媛県へと決め、県内を周り、移住者、協力隊、地元の方々と交流し、東京の移住コーディネーターにもママに連絡しながら、移住するまでなんと3年かけてしまいました。

その間に何度も訪れた愛媛県のみかんボランティア。そこで知り合った人たちは今でも繋がっていて、何かあるごとに今も助けてもらっています。そう！どの地域もいい人ばかりだったけど、愛媛はなんだか自分に合いました。どこ行ってもみんなが、「ここが実家だと思っただけでも帰ってきな」と言ってくれた。東京に帰っても電話や手紙をくれたり、遠い親戚がたくさん出来た気分でした。そんな愛媛県宇和島でボランティア中、鬼北町役場の方に「3時間だけ時間くだ

さい」と言っていただけ案内してもらった鬼北町。ゆったり流れる時間と風景を見ながら「ここかも」と感じ、すぐに移住を決めました。

地域を知るところから

鬼北町は滑床溪谷や高知県へ行く通過点にすぎず、観光や名産もPRが強くなり控えめでした。まず鬼の商品が少ないと思いき、移住してすぐ、リサーチもマーケティングもしないまま、東京で流れているからという理由だけで、鬼をモチーフとしたご朱印帳を作りました。作った後で、ご朱印帳の認知度が全くないことがわかり、ご朱印とは、パワースポット巡りをしながらご朱印を集めることで、ご利益を授かることとの説明からPRしました。ここで一番初めの挫折です。このことで、まずは地域を分らないといけないことに気づき、そして、とにかく人に会うこと、地域を知るところから始めないとダメだと思いました。まずは地域の農家さんたち。毎日、道

の駅に立ち、まずは名前を知ってもらうことから。そこから農家さんのお手伝いに行かせてもらったりしながら鬼北町で出来る野菜や柑橘のゆず畑を見せてもらいました。

それから地域の子供たち。地域の中学校で今鬼北町をどう思っているか、将来どうしたいかを考える授業として交流も兼ねて講義をさせていただきました。その一か月後、町内の高校でも、外から見た鬼北町と地域の就職について講演させていただきました。とても貴重な体験をさせていただいたと思います。現在、地域の活性化を目標に、学生と地域の人達とこれから未来のために理想の鬼北町を作るべく「駅前プロジェクト」に参加させてもらっています。



広見中学校での講義

息抜きはできているのか注目しました。そこで農家民宿でのヨガを企画。お子様は畑で土をいじりながら野菜の授業をしてもらい、その間にお母さん達にはヨガでrelaxしてもらおう。終わった後

は、酵母パンと野菜スープでみんなでご飯を食べ、みんなで片付けをし、食の大切さをみんなでお勉強しました。その後は成川渓谷での「週末リセットする」をコンセプトに、ソトヨガイベントを四回開催させていただきました。

鬼北町には座って話したり休む場所がない。頑張っているお母さんが多く、子供を抱えながら楽しむ時間が少ないように見えました。息抜き第二弾として、赤ちゃん同伴可能なママさんタイムを作り、命をテーマにした「うまれる」という映画の上映会を開催しました。オーガニックや酵素などを取り入れた食材のマルシェとともに、地域の子育て支援の協力で絵本や木の砂場、占い、マッサージなども出店してもらい同時開催をしました。半年後、家族をテーマに



成川渓谷でのソトヨガイベント



映画「うまれる」上映会

した「うまれるずっといっしょ」第二回目も開催し、今後は、第三回目も企画中です。子どもの手形アーティストワークショップをイラストレーターの講師を呼んで開催したりして、何があったらいいか、求めていることなど、ご意見などもイベントを通じて収集しました。現在は成川渓谷休養センターのリノベーションプロジェクトとして、少しずつですがPRとともに新しいことの挑戦や見直しをしながら、より良いサービスを提供できるように動いています。

人から人へ繋がる場所

今後、鬼北町の幅広い年代に必要なのはコミュニティスペース。立ち話ではなく座ってお話ししたり、駅のベンチではなく勉強が出来たり、趣味などのワークショップで得意なことをみんなに共有したりなど、学べて、可能性が生まれて、明るくいいきと過ごすこと。一人じやなく、時に同じ悩みを持っている仲間がいることを知り前向きになれるような場所。

インターネットや本からもたくさんできることを学べるけれど自信が持てたり成長できるのは、やはり人からが一番だと改めて思いました。人と人。人から人へ。繋がる場所。そんな場所、そんな時間をこれからも作り、繋がり大切にしていきたいです。